

平成24年産米生産は始まっている！

良食味・高品質生産の 第一歩は「土づくり」！！

平成24年産米生産に向け「秋すき込み」「堆肥等の施用」を実施しましょう。

土づくりの効果！

- 異常気象条件(高温、干ばつ、冷害等)に対する稲の抵抗性が向上します。
- 保水性や生育後期の窒素供給力が増すなど、登熟向上による良食味・高品質米の生産につながります。

土づくりは「秋すき込み」から！

- 稲わらは土壌微生物によって分解され、「地力窒素」となります。
- 稲わらを分解する土壌微生物は地温が15℃以上で活発に働くため、収穫後地温が高いうちに、できるだけ早く実施することで効果が高まります。
- 秋に稲わらをすき込むことにより、ワキ(メタンガス・硫化水素)の発生が抑えられ、根腐れ等の生育傷害を軽減することができます。

【秋すき込みのポイント】

- 地温が高いうちにできるだけ早く(10月20日頃まで)に行いましょう。
- 作業能率、土壌微生物への酸素供給などを考慮し、5~10cmの浅うちにしましょう。

堆肥、土づくり資材の施用で良食味・高品質生産！

◆有機センター堆肥

- 10a 当たり400~800kgを原則として秋期に散布しましょう。
- 〔 価 格 〕 15kg袋 → 420円 1m³・トンパック(約400kg) → 2,650円
※ 15kg袋は、JAで販売しています。
- 〔 散布料金 〕 2,500円/10a
- 〔 問い合わせ 〕 魚沼市有機センター(794-6688)、農林課農政室(799-3485)

◆土づくり資材

- 秋期・春期いずれも散布できます。
- 〔 散布例 〕 魚沼ロマンアイアンスター(りん酸・けい酸・苦土・鉄・腐植酸を含む総合的な土づくり肥料)60~80kg/10a

※JA北魚沼では、希望者の土壌調査を10月末まで受け付けています。詳しくは、各営農センターへお問い合わせください。

不明な点はJA営農センターまたは普及センターまでおたずねください！

携帯メール会員募集！タイムリーな稲作・気象情報を配信しています！登録方法は、営農センターへお問い合わせください！